



われらの森山校

志布志市立森山小学校だより NO.7 令和7年11月21日発行
学校ホームページ <https://424.ciao.jp/moriyama-els/>



森山太鼓の練習(11月)

子どもといっしょに・・・

校長 古石美紀

11月は校内読書月間。学校では、お話タイム（読み聞かせ）や読書郵便、読書ビンゴ、おすすめの本の紹介など、読書に親しむための楽しい取組実施中です。「読書郵便、もう一枚書きます。」「ビンゴができたから『もう一冊借りられる券』をもらいました!」と嬉しそうに話してくる子どもたち。本の世界を心ゆくまで楽しんでほしいです。

突然ですが、皆さんは読書の「よさ」とは何だと思いますか？例えば…

○知識が増える

（歴史や文化など幅広い知識を得られる）

○語彙力・表現力が向上する

（言葉の力が育つ）

○想像力・創造力が育まれる

（物語の世界を頭の中で描く、創り出す）

○集中力・思考力が鍛えられる

（深くじっくり考える時間になる）

等、が挙げられるかもしれません。経験上、確かに、本好きの子どもはたくさんの力を身に付けていると感じます。でも。「力が付くから読書をしなさい」と言われても、正直なところ「読書をしよう」とはなりません。

では、どうすればよいのか。私は、本を読みたいと思うためには**読書の楽しさ**を感じること、**読書に触れてみたくなる環境**を作ることが大切であると思います。まさに、学校の「校内読書月間」の取組もその一つです。

さらに、とても重要になるのは、**家庭でも読書に親しむ時間と場**を作ることです。

鹿児島県図書館協議会では、平成13年（2001年）から毎月23日を『子どもといっしょに読書の日』としています。子どもたちが、読書の楽しさを知るためには、この「いっしょに」

が、肝になります。一日に10分でもいいと思います。身近なところに本を置いて、子どもに読み聞かせをしてもいいですし、親子で隣に座って静かに読書をしてもらってもいいです。「いっしょに読む」という「時間」を大切にしてほしいです。

毎月23日は「子どもといっしょに読書の日」。子どもたちが読書の喜びや楽しさを知り、読書習慣を身に付けられるよう、ぜひお家で素敵な時間を過ごしてください。

余談です。私は読書がとても好きです。本を読むと、自分以外のいろいろな人生を生きることが出来ます。読みながら大泣きしたり大笑いしたり感動で打ち震えたり。まるでご褒美をもらったかのような気持ちになります。こんなに読書が好きになったのは、小さい頃の読書環境が関係しているかもしれません。父が大の好きで、家の中に本棚がいくつもあり本がぎっしりと詰め込まれていました。本を読む父の姿を見て、私も本を読む時間が自然と作られていたように思います。夢中になったのは、幼稚園の時は絵本や「世界の童話」。小学生になると、赤毛のアンや怪人二十面相シリーズ、担任から紹介された灰谷健次郎の「太陽の子」や「兔の眼」。中高ではコバルト文庫やハヤカワ文庫等など。素敵な本にたくさん出会いました。大人になってからも様々なジャンルや作家の本を楽しんでいます。…実は、私、森山小に赴任してから「テレビなし」の生活を送っており、読書三昧の日々を過ごしています。図書館に通い、気がつけば4月から70冊ほどの本を読んでいます。これからも読書生活を満喫します。

最後にウォルト・ディズニーの名言を。

～宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、
本には多くの宝が眠っている～